

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 6月26日

【評価実施概要】

事業所番号	3490200221
法人名	ウェルフェア株式会社
事業所名	みのりグループホーム川内
所在地	広島市安佐北区川内一丁目22-55 (電話) 082-830-0005

評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6番29号 (財)広島県健康福祉センター内
訪問調査日	平成21年6月24日(水)

【情報提供票より】(H21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13.8

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	(有) (234,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(6月24日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上原内科クリニック ・ 春野歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の近隣に畑が残る住宅街に位置し、約5年前に施設専用に新築されたモダンな2階建てである。廊下は車椅子が無理なく離合でき、ホールもゆったりとしたスペースが確保されている。各フロア3箇所設置されたトイレを始め風呂・ホールは清掃が行き届き、清潔に保たれている。エレベーターも備えられ、広い庭や畑があり、快適な生活空間が確保されている。リビングの壁には、職員と共に作られた季節毎の飾り付けが飾られ、その中で利用者はゆったりと自分のペースで過ごされている。ベランダには、朝顔が植えられ、入居者は毎年花を楽しみにしている、またサツマイモを栽培し収穫後は、近所にも配られる。家族アンケートでは「面会に大変行き易い・利用者が満足している」と基本的な項目で高い評価がされている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>一時的に管理者の入れ替えがあり、その時期に前回の外部評価が実施された。前任管理者と外部評価項目についての引継ぎが行われていない、確認もされていない。この状況から指摘事項の改善は進んでないように見受けられる。今年度より心機一転、前向きな取り組みをされるように期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をスタッフ全員で取り組み、今からの改善点・取り組むべき項目が明確になり、課題の共有が出来たことは評価できる。しかし、それらの課題に対しての具体的な取り組み方法、計画が明確に提示されていない。課題の改善に向けての具体的対策が作成されることを期待します。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期的開催されていることは評価できます。ただ参加者については家族や町内会関係者など地域の住民への参加の呼びかけがされていないため、家族の意見、地区情報の収集が十分でなく、会議内容も施設からの形式的な報告にとどまっているように見受けられる。参加者及び討議内容の充実を図り、運営推進会議の開催がサービスの改善・向上に寄与することを期待します。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族アンケートではサービスに対しておおむね満足しているの回答が寄せられているが、苦情窓口の内容を明記して意見・苦情を申し出易い環境を整える必要はある。また運営推進会議への家族の参加等もそれ以上に有効な方法として導入を早急に検討されることを期待します。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩での地域住民との挨拶、花や野菜のやり取りなどの日常的な交流はできている。また施設内でのボランティアによる日舞の披露等もあった。しかし町内会に未加入で、運営推進会議へ町内会関係者や地域住民代表者の出席がないために地域の行事・情報も定期的には入手しにくい状況にある。災害時等、いざという時に、地域の組織だった協力体制が得られるよう、地域との交流を深める方策が取られることを期待します。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に事業所創設時に独自の理念が作成されていて、それは玄関と各フロアのスタッフルームに掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は週一回、職員の朝礼時に唱和が行われ、理念の共有の姿勢は見られる。ただ、その実践については具体的な形での取り組みは見えにくい。		理念の唱和だけに終わらせず、具体的な行動目標を作成し、その取り組みを具体化して職員間で共有し、実践を通じて、サービス向上に活かされることを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご近所との日常的な挨拶や花や野菜のやり取りの交流はある。また日舞のボランティアの訪問を受けたり、秋祭りの時、子供会の御輿を玄関先で迎えたり、単発的な交流はあるが、地域との定期的・継続的な交流は乏しい。		町内会に加入する等、地域の情報がスムーズにつかめるようにし、地域行事等への積極的な係わり合いを通じて交流が密になり地域の一員として関係が深まることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で作成されているが、外部評価の結果については管理者のみの把握に留まり、職員へは知らせる機会が設けられていない。また、家族や経営者にもその内容は報告されていない。		外部評価についても、その結果が職員全員・家族・経営者に知らされ、運営推進会議でも公表されることにより課題が共有され、課題の改善・サービス向上に活かされることを期待します。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催はされているが、家族や、町内会関係者や地域の住民代表者等への参加の呼びかけが十分にされていない。また会議内容も施設側からの一方的な報告に留まっているように見受けられる。また、家族や経営者への報告がなされていない。		施設からの報告だけでなく、施設としての課題を提示することで、貴重な助言・協力が得られたり地域の情報交換の場となることが期待されます。その意味で家族・地域住民の代表者や経営者の参加が重要とおもわれますので、今後はいろいろと検討され、運営推進会議がより充実し、サービス向上の糸口になることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質問等があれば都度、電話連絡はされている。困ったことやアドバイスが欲しい時、気軽にコンタクトを取り、また市主催の研修の参加等により、徐々にパイプが太くなることを期待します。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られた際に日常生活状況は報告されている。ただ面会にこられる家族が少ないため、大部分の家族には緊急の連絡や必要な連絡以外の日常の暮らしぶり等の報告は十分に行われていない。		電話・お便り等で、行事・暮らしぶり・金銭報告等について、入居者全員の家族に定期的な報告システムを検討し、実施されることを期待します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアカンファレンスや家族の面会時には家族の希望・不満・苦情について確認はされている。しかし、契約書等に苦情申し立ての具体的な内容が明示されていないなどの不備な点があります。今後は、意見・苦情の申し出易い環境作りを期待します。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者へのダメージは理解されている。グループ内での移動はなく、2ユニット間での職員異動も短期間での緊急処置的な例外を除いては基本的にはなく、馴染みの支援がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「認知症介護実践者研修」には随時、交代で参加することが計画されているが、研修の参加は十分に行われていない。今後は本社・事業所での年間の研修スケジュールが作成されることを期待します。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社主催の「リーダー会」は存在するが、事業所としては人員の都合でまだ、参加できていない。市主催の研修等への参加などを通じて同業者との交流がより深まることを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人と家族に十分に見学をしてもらい、本人・家族と十分な話し合いを行っている。また入居直後も家族と密な連絡をとりあっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物干し・畑作業等、利用者の好み・能力に応じて、出来ることを職員と一緒にやってもらっている。また利用者の昔話を聞き、学んだり、喜怒哀楽を共にしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、会話を通じて本人の希望・意向を充分把握するよう努めており、本人の意思を尊重した介護が実施されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本計画は担当者により作成されるが、それを基にケアカンファレンスを開き・調整を加え、職員の話合いで介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては本人の意向は確認しているが、家族への相談・確認・報告が十分にされていない。		介護計画案は本人の確認だけでなく、家族への相談・提示も必要と思われるので、今後は家族と連絡を取り合っ、状況に即した介護計画を作成し、家族への説明・報告も十分に行われることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への定期的な通院は基本的には家族にお願いしているが、協力医への通院はほぼ、職員が対応している。また日々の外出時の送迎等も行い、出来る限りの柔軟な支援がされている。		
また					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師の往診は月一回あり、緊急時には24時間の対応もしてもらえる。本人・家族がか、かかりつけ医への通院を希望すればそれを優先して受診する体制ができている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期における対応が施設としては難しいことを入居条件として書類に明記している。そのことは本人・家族に十分な説明を行い了解をもらっての入居としている。その理由での退去をお願いするときは必ず次の道筋をつけて利用者・家族が困らないよう十分な配慮がされている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の記録等については出したままにせず書庫に保管している。また介護上のプライバシーの保護・配慮については管理者から職員へ日常の業務を通じて指導・徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌を歌ったり、ゲームをしたり皆で楽しく過ごす時間帯を取り入れてはいるが、基本的には一人一人のペースを大切にゆったりと過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在は朝・昼・晩の3食共、お弁当業者より、半加工済みの食材を届けてもらい、お汁を温めたり、トマトを刻んだりの簡単な調理を職員と一緒に利用者も行って		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1時～3時の時間帯で日曜日を除く一日おきに入浴してもらっている。一番に入りたいか最後の方で入りたいかなどの、順番の希望を聞いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホールの壁面には折り紙によるアジサイや樹木の大きな貼り絵がしてある。職員と利用者が一緒に作ったものだ。好みや能力に応じて食器洗い、手すり拭き等、自然に役割分担も決まり、それぞれに楽しみごと・気晴らしの支援が実践されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日、皆で食べるヨーグルト等の全員のおやつの買い出しに利用者も交代で散歩がてら出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、1F玄関の自動ドア施錠はされず通常に作動している。一部のドアは来客時以外はロックされているが、スタッフルームを通り、出入りが出来る。1F・2Fともスタッフルームは施錠されておらず、出入りについてはタッフの目が届くよう工夫されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、通報・消火・非難訓練等は実施されている。管理者は施設の近所に住んでおり、緊急時には通報により管理者がすぐ駆けつける体制となっている。ただ、今後は町内会などを通じて、ご近所住民への応援体制の協力要請は検討の必要があると思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日1リットルの摂取を目安にしている。体調の悪いときは摂取量を記録している。食事についても体調不良時はおかゆを作ったり、キサミをしたり状況に応じた対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを始めトイレ・風呂等の共用空間は掃除が良く行き届き、清潔な管理がされている。ホールの貼り絵等はシーズンごとに、サクラから紅葉へと季節感を取り入れてた模様替えも行われている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室にはベッド・たんす・下駄箱が備え付けられている。利用者はそれ以外に写真や今までの自分の手芸作品などの馴染みの物を飾っている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 みのりグループホーム川内 1F

評価年月日 21年 6月24日

記入年月日 21年 6月 8日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理者 氏名 枝廣 隆司

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域での安心のできる“家”として入居者に暮らして頂きたいという想いをこめて職員全員で作成した独自の理念である。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎週月曜日の朝礼時には施設理念の唱和を行い、ミーティング・申し送り時等にも理念に触れ、確認し合う様にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居契約時に、入居者・家族に理念を説明している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩に出た時などは気軽に挨拶を交わし、花などを見せてもらったり、頂いたりしている。又施設で出来た野菜を差し上げたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元の子供神楽の方や日舞をされる方々がボランティアに来て下さる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方達の見学の希望があれば、いつでも見て頂ける様にしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で取り組み、施設の良い点、悪い点を把握し、サービスの向上の為、改善すべき事項等を検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在の施設の状況等を報告し、意見やアドバイスをして頂き、少しずつではあるが、サービスの向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者との行き来する機会は取れていないが、疑問点等があれば常に電話での問い合わせを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度については、現在管理者のみが対応しており、職員においては学ぶ機会が持っていない。		職員も理解し対応できる様、研修・勉強会に参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持つことが出来ていないが、虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。		職員も理解し対応できる様、研修・勉強会に参加していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって家族等に分かり易い言葉で、丁寧に説明するよう心がけている。又、今後起こりえるリスク、その時の対応等は詳しく説明するように心掛けている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々、入居者の態度から、不平・不満を察する努力をし、入居者一人ひとりの希望に添える様、申し送り時・ケアカンファレンスを行う時など話し合っている。		入居者が意見等を外部者へ表せる機会を設けていないので、機会をつくり、運営に反映させるようにしたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には、暮らしぶりや健康状態、金銭管理について家族に報告している。体調変化がある時は必ず家族の意向を確認し対応している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアカンファレンスを行う前に、家族の意向やその他、不満や苦情について確認をとり、反映出来る様心掛けている。外部者へ表す機会としては、外部評価によるアンケートを使用。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、その日に挙ってきた、職員の意見や提案に耳を傾け、ミーティング時などには、議題として職員とともに検討し、運営に反映出来るよう心掛けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の急な休みの時など、対応できる様、余裕を持って人材を確保しており、管理者も夜間、入居者の状況変化に対応できる様、待機している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>入居者・家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事が大切と考えており、グループ内の異動もなく、離職がやむを得ない場合でも、引き継ぎ面で努力している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>「認知症介護実践者研修」に随時、交代で参加していけるよう計画している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の同業者と交流する機会は持っていない。現状、参加はできていないが、グループ内での勉強会はある。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者が職員個々より、相談を受ける体制をとっている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>健康診断の実施など、職員の心身の健康を保つ為の対応をしている。又、職員がしたいと思う事は出来るだけその意向に沿うように心掛けている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>サービス利用の相談があった場合、必ず本人に会って、心身の状態や気持ちなど確認し、安心してもらえる様な関係作りに努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談に来られた時は、今現在、家族が何に困り、事業所としてどう対応できるか、時間を掛けて話し合いを行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には本人、家族の状況を把握し、どう支援できるかを検討し、できないようなら、地域のケアマネージャーと連携を図るようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	納得したうえでのサービス利用が大切であるので、施設に馴染めるように、家族に出来るだけ訪問してもらい、相談しながら行うようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が全て行うのではなく、入居者が出来る事（掃除・洗濯物干し・食器拭き・調理等）を一緒におこなったり、昔の話を聞かせてもらうなど、学習させて頂いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の様子等、家族に報告・相談し、職員と家族と協力して入居者を支えていく努力をしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	疎遠になっている時には、入居者の様子を家族に報告したり、イベントがある時などは、お誘いするなど、関係が途絶えないよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族に依頼して、馴染みの場所にいけるよう支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>個別に話を聞いたり、相談にのったり、トラブルにならない様気を配っている。レクの時には極力参加して頂き、皆で楽しく過ごす場面作りをするなど、職員は入居者の調整役となって支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>サービス利用が終了しても、引き続き関わりが持てるように日頃からの関係を大事にするよう心掛けている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、把握に努めており、自己決定や希望の表現が困難な方には、ご家族から面会時などに情報を得るようにして、本人の意思を尊重している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人に話をしたり、家族が面会に来られた時など、生活歴や趣味などを聞き、少しずつ把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>入居者一人一人の生活リズムを知り、その日の行動、動作などから、本人の全体の把握に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者には、日々の関わり合いの中で意向を確認し、家族には面会時など思いや意見を聞き、介護計画に反映出来る様、カンファレンスを開き、作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアカンファレンス、モニタリングを行って、介護計画の期間に応じて見直しを行っている。又、状態に変化があった場合は、随時見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の記録は24時間随時記録している。職員の気づきや、状態変化などは詳細に記録し、職員間の情報共有を徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、外出時送迎を行ったり、通院はほぼ施設の方で行っている。又、協力医のDrと夜間休日でも連絡体制を取っており、助言して頂ける様になっている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	福祉サービス利用援助事業かけはしと協力し支援している方もおられる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスや訪問マッサージを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加され、地域や支援する為の情報交換を図っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する病院を優先して受診している。特に指定がない場合、当施設協力医療機関を利用して頂いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科の協力医療機関の先生に指示や助言して頂いている。先生の方で対応できない時は、紹介状を頂いて診療内科を受診し、相談する体制をとっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	内科の協力医療機関の先生に、月2回往診をして頂いており、入居者をよく知る看護職員に色々相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が入院した場合など、定期的に面会に行き、病院関係者や家族と連絡を取るなど、情報交換に努め、早期退院支援に結び付けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>状態の変化があった場合、早い段階より家族、かかりつけ医と話し合い、意向を確認しながら、対応方法を考慮している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、施設として状態変化が見られた場合、かかりつけ医に相談し、施設として何ができるか、出来ないか検討し、家族に報告している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>他の事業者に移られた場合、これまでの暮らしの継続性が損なわれない様、環境、ケア内容、注意点等、情報提供を確実にやっている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>尊敬の気持ちを忘れず、自尊心を傷つけないように言葉がけに注意している。又、記録等も他の方に見られない様注意しており、出したままにせず書庫で保管している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の意思を尊重し、自己決定ができる様、支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にし、過ぎて頂いているが、その日をどのように過ごすかという点について一人一人希望には添えていない。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は出張サービスを受け、髪型等は自分で決められる方には決めて頂いている。身だしなみについても、入居者の好みに合わせた服装やおしゃれをされている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に食事の盛り付けや片付けを行っている。自立度に応じて、台所に一緒に入り、食材を切ったり、食器洗いをされている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとり好みの物は、提供できていないが、お茶の時間などで、入居者の望まれる飲み物を提供している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ・トイレ介助を行っている。尿失禁が少なくなられた入居者さんには、布パンツへの切り替えをし、気持ちよく排泄できる様に支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜日以外で一日おきでの入浴となっている。なるべく希望をお聞きしたり、入浴時色々な会話をしたりして、楽しめる様に支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜、熟睡して頂くよう、出来るだけ活動的な一日を過ごして頂く様に心掛けている。又、気持ちよく休んで頂くよう、定期的に布団を干したり、シーツを交換している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事のできる方はスタッフと一緒にいるようにしている。散歩や買い物等で外出する機会をもち、気晴らしできる様支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理可能な方については、低額で管理して頂いているが、管理困難な方については、施設管理としている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候にもよるが、毎日、散歩やホームの買い物などで外出の機会を支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	数名ではあるが、家族とともに、自宅や、普段行けないところに出かけられている。		家族の方と外出する事が少ない方もおられるので、家族の方と交流が持てる様に働きかけていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の方の希望があれば、希望に沿うように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問して頂けるようにしており、自室にてゆっくり談話して頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を理解しており、見守り・声かけを密に行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	見守りを常に行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の様子を常に観察し、スタッフ同士の声かけや情報を把握し安全に心掛けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	安全性を第一とし、注意の必要な物品のみ、施錠できる様に、保管・管理行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を把握し、職員間での情報の共有、ヒヤリハットの報告書を作成し、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急対応マニュアルは作成してあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的に行えていない。		応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練等を実施しているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけは出来ていない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	定期的に個々の現状をお話するようにしているので、必要に応じ、対応策などについても話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃より、入居者の状態観察に努め、異変に気づいた時には、スタッフ間で情報を共有し、すぐに医師の指示も受けれる体制をとっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人記録に薬の説明書を閉じており、目的等についても理解している。又、症状の変化の確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日、排便チェックをしている。水分をこまめに摂ったり、散歩や体操などをして、身体を動かす働きかけをしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、イソジン液を入れ、うがい・歯磨きを行っている。又、義歯は毎週ポリドント洗浄を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事は一人ひとりに合わせ量は調整している。水分量は一日で1リットルを目安に声かけを行っている。食事が食べられない場合は、少し時間をずらし、水分だけでも摂取して頂くようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症(インフルエンザ・ノロウイルス)に対しての予防や対応の取り決めがあり，実行出来ている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は常に冷蔵庫にて保存し，賞味期限を守っている。まな板・布巾・包丁は毎日、除菌洗浄している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にはプランターに花を植えたり，季節の花など生けており，面会者や来訪者に入り易い雰囲気作りを心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のあるはり絵等を入居者とともに作成し，ホールに飾ったり，季節の花を飾る等して居心地よく過ごせるように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ゆっくりしたい時は自室で過ごされ、話をしたい時はリビングで過ごされている。時々席替えを行い、気分転換を図っている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けの家具をホーム側で用意している。出来るだけ自宅で使っていた、布団や飾り物も持ってきて頂いたり、写真を置いたりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室には24時間換気を設置している。外気温との大きな差がないよう、こまめにエアコンにて調整している。ホールも必ず一日一回は窓を開けて換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、廊下・トイレ等に手すりの設置を行っており、自立した生活が送れるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレに目印を付け、浴室の出入り口にはのれんを掛け、又、居室には表札と好みの花を飾り、確認できる様工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにでて花や近所の野菜を見たり、歌を唄ったり談笑したりして、楽しんで頂いている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 みのりグループホーム川内 2F

評価年月日 21年 6月24日

記入年月日 21年 6月 8日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理者 氏名 枝廣 隆司

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域での安心のできる“家”として入居者に暮らして頂きたいという想いをこめて職員全員で作成した独自の理念である。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎週月曜日の朝礼時には施設理念の唱和を行い、ミーティング・申し送り時等にも理念に触れ、確認し合う様にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	入居契約時に、入居者・家族に理念を説明している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩に出た時などは気軽に挨拶を交わし、花などを見せてもらったり、頂いたりしている。又施設で出来た野菜を差し上げたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元の子供神楽の方や日舞をされる方々がボランティアに来て下さる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方達の見学の希望があれば、いつでも見て頂ける様にしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で取り組み、施設の良い点、悪い点を把握し、サービスの向上の為、改善すべき事項等を検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在の施設の状況等を報告し、意見やアドバイスをして頂き、少しずつではあるが、サービスの向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者との行き来する機会は取れていないが、疑問点等があれば常に電話での問い合わせを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度については、現在管理者のみが対応しており、職員においては学ぶ機会が持っていない。		職員も理解し対応できる様、研修・勉強会に参加していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持つことが出来ていないが、虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。		職員も理解し対応できる様、研修・勉強会に参加していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって家族等に分かり易い言葉で、丁寧に説明するよう心がけている。又、今後起こりえるリスク、その時の対応等は詳しく説明するように心掛けている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々、入居者の態度から、不平・不満を察する努力をし、入居者一人ひとりの希望に添える様、申し送り時・ケアカンファレンスを行う時など、話し合っている。		入居者が意見等を外部者へ表せる機会を設けていないので、機会をつくり、運営に反映させるようにしたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には、暮らしぶりや健康状態、金銭管理について家族に報告している。体調変化がある時は必ず家族の意向を確認し対応している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアカンファレンスを行う前に、家族の意向やその他、不満や苦情について確認をとり、反映出来る様心掛けている。外部者へ表す機会としては、外部評価によるアンケートを使用。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、その日に挙ってきた、職員の意見や提案に耳を傾け、ミーティング時などには、議題として職員とともに検討し、運営に反映出来るよう心掛けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の急な休みの時など、対応できる様、余裕を持って人材を確保しており、管理者も夜間、入居者の状況変化に対応できる様、待機している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者・家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事が大切と考えており、グループ内の異動もなく、離職がやむを得ない場合でも、引き継ぎ面で努力している。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	「認知症介護実践者研修」に随時、交代で参加していく様計画している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者と交流する機会は持っていない。現状、参加はできていないが、グループ内での勉強会はある。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者が職員個々より、相談を受ける体制をとっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	健康診断の実施など、職員の心身の健康を保つ為の対応をしている。又、職員がしたいと思う事は出来るだけその意向に沿うように心掛けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	サービス利用の相談があった場合、必ず本人に会って、心身の状態や気持ちなど確認し、安心してもらえる様な関係作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談に来られた時は、今現在、家族が何に困り、事業所としてどう対応できるか、時間を掛けて話し合いを行っている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談時には本人、家族の状況を把握し、どう支援できるかを検討し、できないようなら、地域のケアマネージャーと連携を図るようにしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>納得したうえでのサービス利用が大切であるので、施設に馴染めるように、家族に出来るだけ訪問してもらい、相談しながら行うようにしている。</p>		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が全て行うのではなく、入居者が出来る事（掃除・洗濯物干し・食器拭き等）を一緒におこなったり、昔の話を聞かせてもらうなど、学習させて頂いている。</p>		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者の様子等、家族に報告・相談し、職員と家族と協力して入居者を支えていく努力をしている。</p>		
29	<p>本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>疎遠になっている時には、入居者の様子を家族に報告したり、イベントがある時などは、お誘いするなど、関係が途絶えないよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族に依頼して、馴染みの場所にいけるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聞いたり、相談にのったり、トラブルにならない様気を配っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、引き続き関わりが持てるように日頃からの関係を大事にするよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、把握に努めており、自己決定や希望の表現が困難な方には、ご家族から面会時などに情報を得るようにして、本人の意思を尊重している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人に話をしたり、家族が面会に来られた時など、生活歴や趣味などを聞き、少しずつ把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者一人一人の生活リズムを知り、その日の行動、動作などから、本人の全体の把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者には、日々の関わり合いの中で意向を確認し、家族には面会時など思いや意見を聞き、介護計画に反映出来る様、カンファレンスを開き、作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアカンファレンス、モニタリングを行って、介護計画の期間に応じて見直しを行っている。又、状態に変化があった場合は、随時見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の記録は24時間随時記録している。職員の気づきや、状態変化などは詳細に記録し、職員間の情報共有を徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、外出時送迎を行ったり、通院はほぼ施設の方で行っている。又、協力医のDrと夜間休日でも連絡体制を取っており、助言して頂ける様になっている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防等の協力を得ながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスや訪問マッサージを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加され、地域や支援する為の情報交換を図っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する病院を優先して受診している。特に指定がない場合、当施設協力医療機関を利用して頂いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科の協力医療機関の先生に指示や助言して頂いている。先生の方で対応できない時は、紹介状を頂いて診療内科を受診し、相談する体制をとっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	内科の協力医療機関の先生に、月2回往診をして頂いており、入居者をよく知る看護職員に色々相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が入院した場合など、定期的に面会に行き、病院関係者や家族と連絡を取るなど、情報交換に努め、早期退院支援に結び付けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>状態の変化があった場合、早い段階より家族、かかりつけ医と話し合い、意向を確認しながら、対応方法を考慮している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、施設として状態変化が見られた場合、かかりつけ医に相談し、施設として何ができるか、出来ないか検討し、家族に報告している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>他の事業者に移られた場合、これまでの暮らしの継続性が損なわれない様、環境、ケア内容、注意点等、情報提供を確実にやっている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりに合わせた声かけを行い、自尊心を傷つけない対応に心がけている。介護記録等もスタッフルーム内にて記録し、出したままにせず、書庫で保管している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その人にあった言葉で説明し、言葉以外にも表情・態度等にも目を向け、自己表現の場を増やしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にし、過ぎて頂いているが、その日をどのように過ごすかという点について一人一人希望には添えていない。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は出張サービスを受け、本人希望を取り入れた髪型にされている。又、希望に応じ行きつけの理髪店を利用して頂いている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べれない物は他の物で代用するなどして、一人ひとりに合わせた、食事が提供できるよう努めている。又、出来る方には片付けなどの手伝いをして頂いている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は本人が希望された時に好きな物を提供している。食べ物については、一人ひとりの健康状態に応じて対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声かけをしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	隔日にて、一人ひとりの体調(入浴前のバイタルチェック)を確認し、入浴して頂いている。又、入浴する順番等には配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣や体調をみながら、休息して頂けるよう声かけしている。又、寝具類の清潔を心掛け、安眠への環境づくりを心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	体調をみながら、個々の趣味などを支援している。又、個々の趣味から皆さんにも勧めてみるなどの工夫もしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理可能な方については、低額で管理して頂いているが、管理困難な方については、施設管理としている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候にもよるが、毎日、散歩やホームの買い物などで外出の機会を支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族とともに、普段は行けないところに出かけられている方もおられる。		個々では難しいが、少人数で出掛ける機会をもつようにしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の方の希望があれば、希望に沿うように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問して頂けるようにしており、自室にてゆっくり談話して頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は身体拘束をしない事を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでいるが、入居者の安全に配慮して、2Fユニット入口には鍵をかけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にフロアーに職員がおり見守りを行っている。又、職員同士声を掛けあい、入居者の所在、様子を把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	安全性を第一とし、注意の必要な物品のみ、施錠できる様に、保管・管理行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を把握し、職員間での情報の共有、ヒヤリハットの報告書を作成し、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急対応マニュアルは作成してあるが、応急手当や初期対応の訓練は定期的に行えていない。		応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練等を実施しているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけは出来ていない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	定期的に個々の現状をお話するようにしているので、必要に応じ、対応策などについても話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃より、入居者の状態観察に努め、異変に気づいた時には、スタッフ間で情報を共有し、すぐに医師の指示も受けれる体制をとっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人記録に薬の説明書を閉じており、目的等についても理解している。又、症状の変化の確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	常に排便状況をチェックしており、毎朝、ヨーグルト又は牛乳を提供し、予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアへの声かけを行い、必要に応じ口腔ケア介助を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量のチェックを行い、日々観察し記録をおこなっている。水分摂取の少ない方にも、声かけにて飲んでもらっている。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>感染症（インフルエンザ・ノロウイルス）に対しての予防や対応の取り決めがあり、実行出来ている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は常に冷蔵庫にて保存し、賞味期限を守っている。まな板・布巾・包丁は毎日、除菌洗浄している。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関のプランターに花を植えたり、季節の花など生けており、面会者や来訪者に入り易い雰囲気作りを心掛けている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビング・廊下に季節の花など生け、ベランダでは、プランターに草花を植えて、季節感を味わって頂くよう工夫してある。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ゆっくりしたい時は自室で過ごして頂いている。リビングにはソファを起し、ゆっくりと話ができる場所作りをしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けの家具をホーム側で用意している。出来るだけ自宅で使っていた、布団や飾り物も持ってきて頂いたり、写真を置いたりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室には24時間換気を設置している。毎朝の掃除時には換気に努めている。温度調整も外気温と大きな差がないよう、こまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで、廊下・トイレ等に手すりの設置を行っており、自立した生活が送れるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ入り口には目印を、浴室入口にはのれんを掛け、居室には表札を付けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダには花を植えて水やりをして頂いたり、屋上に上がってひなたぼっこをしたりして季節感を味わって頂いている。		